

論語 予習プリント ①

○ 次の訓読文に、読む順番を数字で書き入れよう。

(例) (1 2 3 × 4 6 5 、 9 7 8 10)

子曰、^{ハク}「^{ビテ}学^レ而^レ時^ニ習^フ之^ヲ、不^ズ亦^{また}説^{バシカラ}一^ハ乎^や。

(6 1 4 2 3 5 、 9 7 8 10)

有^リ下^下朋^友自^リ二^二遠^方一^一来^{タル}上^上、不^ズ亦^{また}樂^{シカラ}一^一乎^や。

(1 3 2 × 5 4 、 9 6 7 8 10)

人^人不^ズシテ^テ知^ラ而^レ不^ズ慍^ミ、不^ズ亦^{また}君^{ナラ}子^子乎^や。

(1 2 4 3 × 6 5 、 10 7 9 8 ×)

子曰、^{ハク}「^{メテ}温^レ故^キ而^レ知^レ新^{シキ}、可^{シト}二^二以^テ為^ル師^ス矣[。]」

(1 2 3 × 5 4 6 7 。 1 × 3 2 4 5)

子曰、^{ハク}「^{ビテ}学^レ而^レ不^ズ思^ハ則^チ罔^シ。思^{ヒテ}而^レ不^ズ思^ハ則^チ殆^{シト}。」

(1 2 4 3 5 、 10 9 7 6 8)

子曰、^{ハク}「^ル知^レ之^ヲ者、不^ズ如^カ二^二好^ム之^ヲ者^ニ。」

(2 1 3 、 8 7 5 4 6)

好^ム之^ヲ者、不^ズ如^カ二^二樂^{シム}之^ヲ者^ニ。」

論語 予習プリント ②

4/23

○ 次の訓読文を書き下し文にしましょう。

子曰はく、「**学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。**」

子曰、ハク、「学而ヒテ時ニ習フ之ヲ、不ズ亦また説バシカラ一ヤ乎。

朋遠方より来たるあり、また樂しからずや。

有リ朋ニ自より遠方一来タル、不ズ亦また樂シカラ一ヤ乎。

人知らずして慍みず、また君子ならずや。」と。

人不知シテ而不慍ミ、不ズ亦また君ナラ子乎一。

子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、以て師たるべし。」と。

子曰、ハク、「温メテ故而知レバ新シキヲ、可シト以テ為タル師矣。」

子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

子曰、ハク、「学而不思ハ則チ罔シ。思ヒテ而不学ハ則チ殆シト。」

子曰はく、「これを知る者は、これを好む者にしかず。」

子曰、ハク、「知ル之ヲ者、不ズ如シカ好ム之ヲ者ニ一。

これを好む者は、これを楽しむ者にしかず。」と。

好ム之ヲ者、不ズ如シカ樂シム之ヲ者ニ一。

☆教科書33～34ページで正しい書き方を確認しておこう。

論語 子罕篇下 ③

4/24

- 書き下し文を三回音読し、暗唱できるようにしよう。
- 便覧212ページを読み、「論語」の現代口語訳を書き写ししよう。

孔子は言った「人に教えてもらったことを適切なときに繰り返し復習すると、理解が深まってなんと喜ばしいことか。」

①子曰く、「学びて時にこれを習う、また喜ばしからずや。」

共に学んだ友人が遠くからやって来るのは、

なんと楽しいことだろうか。

学ぶ＝教えてもらう
習ふ＝復習する
思ふ＝自分で考える

朋遠方より来たるあり、また楽しからずや。

人が自分のことをわかってくれないと言って不平不満を言わず、常に道を楽しむことが出来る人は本当の君主なのではないか。」と。

人知らずして温みず、また君子ならずや。」と。

孔子は言った「先人の知識や歴史を学びきわめて、そこから現在にふさわしい意義が発見できるようになれば、人の師となる資格があるのだ。」と。

温故知新の
もつ
になった言葉

②子曰く、「故きを温めて新しきを知れば、以て師たるべし。」

孔子は言った「学ぶだけで自分で考えないと、ものの道理は明確にはならない。自分で考えるだけで学ぶことをしないと、ひとりよがりの考えになって危険だ」と。

③子曰く、「学びて思はれむば則ち困る。思ひて学ばれむば則ち殆ど。」と。

孔子は言った「知っているという者では、これを愛好する者には及ばない。」

④子曰く、「これを知る者は、これを好む者にしかず。」

愛好する者は、これを楽しむ者には及ばない」と。

これを好む者は、これを楽しむ者にしかず。」

意味の分からない語句は辞書で調べよう。

知識だけではそれを好きな人にはかなわない。好きなだけではそれを楽しんでいる人にはかなわない。